

蕨市立病院経営改革プラン外部評価員会議概要（書面開催）

【日 時】 令和4年3月

【評価員】（敬称略）須田 嵩 、内田 研

【内 容】

- （1）第2次経営改革プラン行動計画の実施状況について
- （2）令和3年度上半期報告について
- （3）その他

配布資料

資料1 第2次プラン取組状況

資料2 令和3年度上半期損益比較

資料3 令和3年度上半期業務量

参考資料1-1 令和2年度決算業務量

参考資料1-2 令和2年度決算損益比較

参考資料2 新型コロナウイルス感染症対応について

【資料説明】

資料1 第2次経営改革プラン行動計画の実施状況について

各項目の＜令和3年12月末現在＞が最新の実施状況となっております。

資料2 令和3年度上半期報告について

（1）収益的収入及び支出 （ア）収入

上半期における事業収益は、13億2,123万6,850円となり、前年度と比べて1億6,423万4,115円の増収となりました。そのうち、入院・外来、その他医業収益をあわせた医業収益の合計は、前年度比1億6,163万1,542円増の12億9,903万1,781円となっております。

（1）収益的収入及び支出 （イ）支出

支出の事業費用につきましては、15億591万5,779円となりまして、前年度より8,393万7,622円の増となっております。

医業費用のうち給与費につきましては、非常勤医師等にかかる賃金が増加したため、前年度比3,433万8,888円増の9億3,022万3,920円となっております。

材料費については、患者数の増加により前年度比3,096万1,550円増の3億183万8,816円となっております。

減価償却費につきましては、令和2年度に導入した、オーダーリング・医事・会計システムの影響により、前年度比1,323万3,500円増の6,516万8,000円となりました。

これらの結果、上半期における事業収益・事業費用の収支差引は、前年度比 8,029 万 6,493 円増ではありますが、1 億 8,467 万 8,929 円の純損失の計上となりました。

資料3 令和3年度上半期（業務量）について

令和3年度上半期における患者数であります。入院合計は1万2,953人となり、前年度より175人の増となりました。次に外来では合計が6万1,699人となり、前年度より1万9,288人の増となっております。

診療科別で見ますと、入院では外科、小児科以外で増加しており、病床利用率は、前年度から0.74ポイント増の54.45%となっております。

外来においては、人工透析科を除く他の診療科で増加しており、特に内科で大きく増加しております。

資料左下の産婦人科の分娩件数につきましては、前年度比13件減の132件となっております。また、各診療科における手術件数につきましては、整形外科、産婦人科で増加し、全体として前年度比114件増の494件となっております。

参考資料1-1・1-2 令和2年度決算について

「1. 医業収益」では、入院収益が令和2年度は10億1,890万3,794円、前年度比マイナス19.40%となり、外来収益では10億7,720万3,327円で、前年度比マイナス15.46%となりました。その他医業収益3億7,872万6,225円を合わせた「医業収益」の合計は、24億7,483万3,346円となり、前年度と比べて、約4億6,736万円の減となりました。

次に、「2 医業費用」ですが、医業費用の合計額は前年度比マイナス2.06%の28億7,776万7,142円となり、約6,057万円の減少となりました。

この結果、医業利益はマイナス4億293万3,796円となり、この医業収支に、施設使用料などの医業外収支などを加えた結果、令和2年度は3億4,533万7,980円の純損失の計上となっております。

参考資料2 新型コロナウイルス感染症対応について

新型コロナウイルス感染症における医療機関の対応として、「発熱外来」「陽性患者の入院受入」「ワクチン接種」の3つが主なものとなりますが、蕨市立病院は全てにおいて積極的に取り組んでおり、同様の対応をしているのは埼玉県南地域でも非常に限られた医療機関のみとなっております。蕨市における検査陽性者の半数近くは、当院で検査・報告したものとなっております。